



とうほうゆうづい

『礼は往来にあり』



鹿児島市日中友好協会会長 海江田 順三郎

2007年の新春を迎えましたが、皆さまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。私事で恐縮ですが、昨年3回程、中国に行く機会に恵まれました。最初は3月末から一週間、「日本高校生交流代表団」の団長を命ぜられ、西日本地区の49名の高校生たちと、北京と上海を訪問しました。

スポーツや共同学習、ホームステイなどを通して、初対面の日中の若者たちが、言葉の壁を乗り越えて、直ぐに打解け合い、涙を流して別れを惜しむ情景に感動させられ、青少年交流こそが日中友好の決め手になることを確信しました。2回目は5月に「民間友好交流週間」開催中の江蘇省に、県国際交流協会、県日中友好協会の有志の方々と、南京、蘇州、無錫を巡回しましたが、鹿児島県と職員の相互派遣を実施してきた江蘇省だけに、愛知、石川県などの友好盟約県に準じて、私たち鹿児島からの訪問団には、何かと気遣いを感じました。

3回目は11月、チャーター機での太極拳交流団を募って北京に行き、昨年3月に鹿児島に来訪された北京の高齢者太極拳愛好グループと、多勢の北京市民に囲まれた天壇公園で合同演舞を行いました。この時の様子が日中友好のイベントとして、テレビでも放映されました。太極拳交流団が帰国して2日後に、同じく北京で「全国日中友好協会の代表者会議」が中国政府や中日友好協会の招待で人民大会堂内で開催されました。中日友好協会主催の歓迎レセプションでは、人民政府や対外友好協会主要人も臨席され日中関係改善への中国側の強い意欲と熱意を感じ取られました。会議の合間に建設中のオリンピ

ック競技場の工事現場にも案内され、メインスタジアムの奇妙なフォームに驚かされました。

尚、日中友好協会の当初の予定より2日程遅れたのを利用して、私は大石慶二氏（鹿児島市日中友好協会常務理事）から紹介して頂いた現地のガイドの案内で、北京から山西省の大同に足を伸ばし、雲崗の石仏や華嚴寺の大仏、絶壁の中腹に巧妙に建てられた懸空寺などの名所旧跡を探索する貴重な機会を得ましたが、大同から北京に帰る列車の中で、乗り合わせた中国の中年女性から旧満州（東北地区）において、日本軍が地中に埋めて遺棄した多量の毒ガス弾で、現在も住民の損傷が絶えないことを知らされ、肩身の狭い思いをしました。所で今年には鹿児島市と長沙市の友好都市盟約25周年に当たります。昨年暮に来鹿された長沙市対外友好協会のスタッフから、今年の10月頃、盛大な祝典を計画なので、鹿児島から多数の方が長沙を訪問していただきたいとの強い要請がありました。中国の古典「礼記」に、礼は往来にあり、という言葉がありますが、矢張りお互いに、訪問し合うことが礼儀にかなない、友好親善を増進することになると思います。

今後、先方の計画が具体化しましたら当方としても訪問団を募集いたしたいと存じますので、その節は宜しくお願ひ申し上げます。

長沙市訪問を含めて今年も日中友好協会へのご指導、ご協力の程重ねて宜しくお願ひ申し上げます。

高島屋開発(株) 社長



雲崗（第20窟：如来座像）

発行所 鹿児島市日中友好協会
鹿児島市海江田 順三郎
〒892-8555
鹿児島市千日町1番12号
（タカプラ内）
本部：海江田 順三郎
TEL 099-226-2161
女性部：天達 美代子
TEL 099-254-1402
学生部：山崎 真里菜
TEL 090-5280-1039
交易部：赤塚 晴彦
TEL 099-250-1313
企画部：大石 慶二
TEL 050-3456-5228

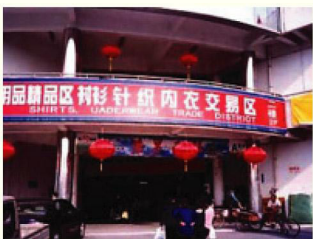
『中国貿易について』

鹿児島市日中友好協会
交易部事務局 宮下隆雄



みなさんこんにちはは交易部の宮下隆雄（のぶお）です。中国貿易について色々お話ししていきます。私が中国に初めて行ったのが今から二〇年ぐらい前だと思えます。とても広くて人が多いという印象でした。十九歳で独立し二十四歳で会社設立木材販売を始めました。年々厳しくなる現状をどうにか出来ないものか？利益を上げる方法はないものかと考える毎日でした。銀行関係の貿易ミッションにも参加して貿易の勉強もしました。最初は大きなボストンバックに入るぐらいの製品を持ってきて販売したりみんなと一緒にコンテナで混載して販売したり製品に不都合があり失敗したり色々ありましたけれど毎日諦めずに中国貿易をどのようにすれば成功できるのかという信念でいました。そういう折友人の紹介で中国の人と知り合うことが出来ました。それ以来今まで中国の事をかなり勉強して来ましたので努力が実り床フローリングと福州杉の壁板をおもに中国から直接仕入れしています。中国との貿易はかなり難しいと思います。しかし諦めずに努力していけば他社との競争にも勝てますし安く仕入れることにより利益を上げることが出来ます。今では（有）宮下木材から(株)宮下木材市場と一歩上を目指すことが出来ました。これから貿易をしていこうと考えているみなさん今回の義烏は第一歩になると思えます。これからもみなさまと一緒に頑張っていこうと思えます。たくさんのご参加をお待ちしております。

(株式会社) 宮下木材市場 代表取締役



中国義烏市場視察ツアー
期間：3月10日(土)～
14日(水)
訪問地：上海・義烏市・烏鎮
旅行社：JTB鹿児島タカプラ店

『異文化と接する際の』

姿勢について』



鹿児島市日中友好協会学生部会長 黄佳 (青島)

私の専攻は心理学で、特に自己概念と外来文化(異文化)受容について感心を持っています。その理由は、日中関係は政治面から捉えるのではなく、個人レベルから捉えることも大事だと考えているからです。個人と個人の関係が広がって国と国との関係になるので、できるところから小さいな理解を重ねていく必要があると思います。

しかし、私たちはマスクミなどの影響で知らず知らずのうち、ある人をその属する集団や人種につきまとう固定的イメージで見えてしまうことがあります。その例としては13億人の中国人を指して「彼らは狡猾な人間だ」と言ったり、1億以上の日本人を「彼らはもの静かで、皆勤勉だ」と言い切ることができるようか。実際には同じ中国人や日本人であっても、さまざまな個性が存在しています。その個性に目を向けず固定したイメージで相手を見てしまうと、誤解やギャップを生じ柔軟なコミュニケーションが取れなくなります。それに、異文化の接触については二つの間違った傾向が現れやすいと感じています。

一つは異文化との差異を意識せず、自分の価値基準で物事を判断する傾向です。もう一つはその違いを意識してはいるが、文化が違うという理由で、それへの理解を放棄する傾向です。それらの違いを理解するためには、何よりも大切なのは異文化理解への積極的な姿勢だと考えています。しかし、異文化理解への積極的な姿勢があっても、ギャップが生じたときうまく対応できない場合があります。心理学の視点から、自分と相手の立場の双方を理解する、第三者の立場をもつことを提唱したいと思います。自分の立場だけに立つと、自分の価値基準だけで相手を判断することは誤解が生じやすいです。しかし、相手の立場に立とうとして、うまく行かない場合があります。相手の立場に立ってみたとしても、完全に相手のように考えることは、また相手の文化の価値基準で判断し、自分の立場を否定することになります。

そこで自分と相手の立場から離れ、双方の立場を眺める必要があります。文化の違いによる衝突が起こるとき双方は感情的になりがちであり、理性を保つためにも、当事者の立場から離れて第三者の視線で、冷静に物事を見る必要があるとなります。それでも、自分の考え・言動の背景について素早く整理できますが、相手の背景にある文化に対する理解は一定の難しさがあります。この場合では、歴史の勉強を通して理解を深めることが大切だと思います。

最後、異文化と接する際に、相互ふれあいの少なさは相手に対する肯定的な理解よりむしろ否定的な理解を生むような気がします。そのため、異文化とふれあい際には、積極的な姿勢がとても大事だと思います。そして、相手との理解が深めたことで、高い自己評価にもつながるもので、自国文化を大切する上で、相手国の文化・歴史を学び、第三者の立場で冷静に物事を見ることが大事ではないでしょうか。(鹿児島大学法文学部人文学科四年)

『中国と私』



鹿児島市日中友好協会理事 入来院貞子

十五年ほど前、一週間西安を訪れたことがあった。五日間、午前中は中国の勉強、午後は観光という特殊なツアーだった。大学で古い歴史の講義も聴いたし、気功、太極拳などその筋の一流の先生の手ほどきを受けた。

通訳は若い女性二人で、可愛く活発だった。私は、まだ中国人とは同じ人民服を着た地味な人たちばかりと思っていたが、彼女たちの皮コートがしゃれたデザインで、それも市場では豊富にあつて、改革開放の速度に驚いたものだった。しかし屋外の地べたにしゃがんで雑炊をすすっている子供たちを見ると貧しさからの脱出はまだまだと思えた。郊外の農民と都会の人々の生活レベルの差はすでに歴然としていた。西安はまさに歴史の宝庫。中学生の頃から十八史略や史記に読みふけていた私には感激の連続だった。兵馬俑、碑林、大雁塔、華清池、函谷関など全て忘れられない。

一昨年前、私は夫と上海、杭州、南京、蘇州を巡るツアーに参加した。その十年間の中国の発展ぶりには目を見張った。南京の都市改造は進んでいて、最後の貧民街が取り壊される所だった。かつて日本兵が万歳している写真が記憶にある城壁を登ったときは複雑な気持ちだった。心無い質問をする日本人に腹が立ったし、穏やかな返事をしてきた中国人の案内人に感服したのだった。

実に長い日中の交流に思いを馳せて、今後とも友好を深めるよう努め、日中が世界平和の牽引役を務めるべきだと思ふ。そのために今何をなすべきか、しっかりと考える必要があると思ふこの頃である。

(入来花水木会 代表 入来新能の主催など町興しに努力)

『日本人の和のこころ』



鹿児島大学法文学部 宿金語(天津)

皆さん、こんにちは。中国には「一人なら虫だが大勢集まると龍になる」ということわざがあります。このことわざは何を表していると思いますか?最近、私はこのことわざについてとても考えさせられています。一人ならどんなに大きな力を持って一人の力でしかありませんが、多くの人が集まるとどんなに小さい力を持っても大きくなります。日本はこのことわざにとってもあてはまる国だと思えます。日本人の和という他人を思いやる心、「調和」、「平和」、「均衡」を大切にし、協調性のある集団力の強さに私は非常に心を打たれました。確かに日本人はみんな同じスタイルでないと不安になるような個性のない民族だといわれています。しかし、私は、日本人が大切にしてきた和のこころを今後の国際社会に役立てるべきだと思います。ですが、最近では学校教育の場でも日常生活の場でも個性ばかりが大切にされている協調性を大切にしたい日本古来の集団意識がうすれているのではないのでしょうか。ここで私が鹿児島でこのこと

について経験し、考えたことを紹介したいと思えます。昨年の10月に多国籍合宿というイベントを行いました。このイベントは日本人、外国人と友達になろう、そして、お互いの文化や習慣などを理解し合うという目的で行いました。イベントを成功させるために準備が半年以上かかって、渉外、総務、企画、記録などに分かれて、それぞれの力を合わせながら運営していきました。日本人や他の国の人々と進めていく上で、言葉、文化、生活習慣、イデオロギ―、考え方の違いなどで様々な問題が起りました。例えば、日本人なら普段は夜にお風呂に入ったり、シャワーを浴びたりします。しかし、アフリカの人は朝にシャワーを浴びる習慣があります。私たちがスタッフはその習慣をあまり知りませんでしたので、準備もできず、彼らはシャワーを浴びられなくなっていました。でも、彼らは何の文句も言わなかったのです。このイベントに参加した各国の人たちはそれぞれ違う文化を持っていますけれど、一緒になると一つの家族のように大きな力を合わせて、協力し合って、この大きなイベントを成功させたのだと私は参加者の皆さんから教えてもらいました。

皆さん、私が今紹介した体験についてどう思いますか？集団だからこそ生まれる力が伝わってくるのでしょうか？では、なぜ集団意識を大切にする必要があるのでしょうか？もう一つ例を挙げましょう。世界でも指折りの電気メーカーの一つである松下電器が初めてアメリカにテレビを輸出したとき、その販売状況は大変厳しかったそうです。それを根本的に改善するために日本の他の電器会社と協力し合い大きな集団として立ち向かって行ったのです。みんなの努力の下でアメリカ市場での「松下」を大きく発展させたのです。皆さん、すごいと思いませんか？確かに集団意識が強ければ強いほど人間の個性が失われる可能性があります。しかし、集団意識が強いからこそ日本の経済は戦後の不況から急激に発達したではないでしょうか。

以前の中国にも「団結は力だ」という言葉がありました。最近では経済の発展と共に個性を重視する思想も入ってきて、だんだん集団意識が失われています。現代の日本でも個性に対しての意識がとても広まっています。確かに個性は人の能力を反映することができるので大事だと思えます。しかし、時には個性より集団を尊重しなければいけな

い場合があります。その時こそ、私たちは日本の和のころを思い出さなければなりません。世界中にはたくさん国があつてそれぞれが自分の民族性や個性を持っています。なので、集団意識を持ち、協力していくことを通して貿易や技術援助を行ったりすることによってそれぞれの国がつながり発展していきます。世界が一つになるためには協調性を大切にし、和を重んじた日本古来の集団意識が役立つと思いますのでみなさん大切にしてください。私も日本人の和のころをもっと学んでいきたいと思えます。(鹿児島大学中国留学生学友会 副会長)

『日中芸能のつどい』開催 2006.10.8

平成十八年十月八日(日) 十三時開演
鹿児島市 市民文化ホール(第2) 鹿児島市日中友好協会主催・鹿児島文化交流協議会主催による『日中芸能の集い』が開催され、当日訪れた一〇〇〇名を越す多くの観客が日本の古典芸能と中国の民族芸能とのコラボレーションに満喫していました。オーブン演技として鹿児島太極拳グループ、鹿児島県太極拳連盟と日本健康太極拳協会鹿児島支部の表演が披露された。

特別ゲストとして、『中国大連市福音音楽学校』から十名の楽員が参加して楽器演奏、歌唱、舞踊とすばらしい芸能を披露、場内満員の観客の喝采を浴びました。また、鹿児島で活躍されている舞踊、和楽器などの伝統芸能をはじめ、九州で活躍している二胡奏者・劉福君さんの二胡の演奏や鹿児島教室の皆さんの二胡の団体演奏もあり、日中交流を盛り上げました。

～出場者の皆さん～
日本舞踊／芳隆流社中・藤原流社中
初音家政政流社中
琉球舞踊／玉城流社中
舞泉流社中
二胡演奏／劉 福君
モンゴル歌謡／木其尔
大正琴／琴城流社中
キングアカデミー／羽島健二
キングレコード／天達美代子
楊名時太極拳二十四式
日本健康太極拳協会
鹿児島県支部 武術太極拳「剣」
鹿児島県太極拳連盟
中国大連市福音音楽学校



12回 ～鹿児島で世界を語ろう～
外国人による日本語スピーチコンテスト



- ・最優秀賞・・チョントンヨブ(韓国)
- ・優秀賞・・・ゾウイン(中国)
- ・審査員特別賞(中国東方航空提供の鹿児島～上海往復航空券)
- ・南日本新聞社賞・・ハフィーズウルレーマン(パキスタン)
- ・鹿児島県国際交流協会賞・・宿 金語(中国)
- ・奨励賞
 チョウ ホウショウ(中国)
 パルバシークリシュナクマー(インド)
 古荘 スシアナ(インドネシア)
 キムソンファ(韓国)
 オウレイクン(中国)
 ファン ゲエン リン タオ(ベトナム)

『日本語スピーチコンテストを振り返って』
財団法人鹿児島県国際交流協会 上片平 文裕

今回、「鹿児島で世界を語ろう」在任外国人による日本語スピーチコンテスト」の予選・本選を主催者として経験しましたが驚きと感動の連続でした。予選は、本選に選ばれた人も含めて、多くの人が「原稿を読む」という感じのスピーチでした。「本選は、大勢の人の前で大丈夫かな？」という不安が多少ありました。しかし、それは杞憂でした。予選からわずか1週間の間に発表者は大きく変わっていました。私は、司会者席から発表者の様子を見ていましたが、どの発表者も緊張していませんでした。それにもかかわらず発表者は、原稿にはほとんど目を向けず、感情豊かに堂々と、それぞれの思いを聴衆に語りかけていました。その内容も、聴衆がうなずいたり、感心したり、そして思わず笑ったりと、とても充実したものでした。発表者それぞれ日本語の学習期間は違うものの、持てる力を精一杯出してスピーチしたことに、驚きと感動を覚えずにはいられません。発表者の姿に、来年も発表者・聴衆ともに喜んでもらえるよう、より充実した内容で運営したいという思いを強くしたところです。

九江学院（江西省）副院長、一行6名、鹿児島訪問。

2006年4月5（水）、6日（木）



江西省九江市にある九江学院大学の副院長を団長に工学部教授、芸術学教授、体育学部教授、他学生部一行6名が鹿児島を初訪問された。現在、九江学院大学で日本語教師をしておられる当協会の池田光栄氏の縁での訪問。一行は4月5日午後0時30分鹿児島空港着協会側で用意した車で今回の日本視察訪問（大阪、東京など7日間）の無事祈願（霧島神宮）と神話の里、霧島高原をドライブ。市内の水族館、黎明館を見学。翌日は来鹿の主目的である鹿児島大学を訪問、学内見学と留学生センター長との意見交換。市役所に森市長を表敬訪問。県庁を表敬訪問し国際交流課長他と意見交換会。夜は協会役員、中国留学生、県の来賓を交えてサンロイヤルホテルでなごやかな晩餐会を開催。

中国留学生との一日交流・霧島・高千穂峯登山

2006年6月25日（日）



今年の鹿児島市日中友好協会学生部主催の恒例の一日バスツアー（ハイキング）は高千穂登山。昨年の大浪池登山の時も霧島は雨、頂上は一面霧に覆われあの美しい池は何処にあるのか方向さえ分らなかつた。なのに今年も又この時期に決行となりました。週間天気予報もずっと傘マーク。なのに当日朝日が覚めると、何と！青空がいっぱい、「あたしのテルテル坊主のおかげよ。」代表の黄佳さんが自慢げに言った。中国にもテルテル坊主あるのかな。登山途中で空が真暗になり雷と豪雨の予感。遭難の二字が頭をよぎる。残念ながら回去の号令を。でも、記念撮影だけは河原の鳥居の前で傘をささずに撮れました。40名参加。

鹿児島市日中友好協会交易部会 2006年度総会開催。

2006年9月5日（火）



サンロイヤルホテルに於いて交易部第2回目の総会並びに懇親会が開催されました。海江田会長、赤塚交易部会長の挨拶の後、審議に入り全員一致で各議案は可決されました。懇親会では、今年新しく中国東方航空支店長として鹿児島に赴任されました張俊莉女士が「日中交流の新しい道」についてお話をされました。続いて交易部事務局長・宮下隆雄氏が「トランクビジネスによる新しい交易」について独自の切り口で講演して戴きました。その後の会食での話題は、ぜひ、交易部で企画していただきメンバーで義鳥ビジネスツアーをしましょう。と盛りあがっていました。

『おはら祭』に中国人留学生の店「点心来来」オープン大人気

2006年11月3日（金）



鹿児島市の秋のお祭り『おはら祭』が行われました。照国表参道は歩行者天国（歩行街）になり、恒例の『照国祭り』が行われました。ここではKTSのステージイベントや中央地区の各通りの青年部による模擬店が立ち並び、市民の人気スポットです。今年のはじめて鹿児島市日中友好協会鹿児島大学学生部による模擬店が出され、黄佳会長と呉慶会員のチャイナ服姿での名客引き??ペアが大人気で、当初、300個売れば材料代は何とかなるさ、目的は何と言っても市民との交流と言っていた田くんや山崎さんら会員の話も、いざ、始めてみたら、売れる売れるこれぞ、行列の出来る??屋さん。状態でした。9人の仲間たちは昼ごはんも食べられなかったそうです。

編集後記

おおいし けいじ



中国人留学生たちと付き合い始めて4年が経つ。かの大地を巡り始めてからはもう10年余が過ぎる。鳥瞰の旅より虫瞰の旅を好む、といっても硬寝台か高速バスが多い。豊かさ指向の中国の庶民との親交が愉しみでよく旅に出る。中国には現在日本にいる留学生が子供の頃の生活レベルがまだごく普通に存在している。▼湖南の日本語学校で教鞭をとった経験がある。ほとんどの学生が将来の夢は「金持ちになること、そして歳をとったら故郷に帰り親孝行をして暮すのだ」という。そのため今勉強をして大会社の社長を目指すのだという。▼今の日本で金持ちになって親孝行をしたという学生を捜すのは至難だ。自分の進学の為に必死で働いてくれる親の姿をみる学生が少ないせいなのか。貧しさの中で築かれている親子の絆が解き放された時、そして学費が生活を圧迫しない生活水準になったときに、果して中国の学生たちは親に対して今と同じ感情を抱き続けるのだろうか。▼こちらにいる留学生の生活レベルは低くない、既に多くの接した中国の学生たちと彼らとはどこか違う。親しい留学生のことばが耳に残る「私は私です。一生一回しかない人生を自分の為に精一杯生きたいです！人それぞれ自分らしい生き方を考え、行動する権利があるからです。」帰国せず人生のステージを日本に求め就職・結婚する留学生も多い。▼やがて景色が変わった時、今の彼らの2世代あと位にきつと来る豊かさの代償が恐い。高学歴の親たちが子が求めるものと子が親に抱くものの差の先に「歳をとったら故郷に帰り親と一緒に暮したい」と目を輝かせて語っていたあの湖南の学生たちの思いがいつまでも萎えないで欲しいと願う。